

2022年FIA-F4選手権シリーズ
HFDP参加選手レポート
第1大会（第1戦/第2戦） 参戦レポート

5月3日（火）～4日（水）、富士スピードウェイ（静岡県）で2022年FIA-F4選手権シリーズ第1大会（第1戦、第2戦）が開催されました。HFDP（ホンダ・フォーミュラ・ドリーム・プロジェクト）からは#5 小出峻（1999年10月26日生まれ、22歳）、#6 西村和真（1999年7月21日、22歳）、#7 三井優介（2002年4月22日生まれ、20歳）の3人が参戦しました。#5 小出は2年目、#6 西村、#7 三井は1年目のFIA-F4フルシーズン参戦です。



デビュー戦で三井が優勝、小出も優勝。

■公式予選（20分間）：天候/晴れ 路面/ドライ



今シーズンは年間登録参加台数が40台を超え過去最大となったため、公式予選はA、Bの2組に分けて20分ずつの計時セッションを行い、A組、B組の順位で左右グリッドに整列するという形式となりました。レースウィークを迎えた富士スピードウェイは雨模様で、木曜、金曜とウェット路面でトレーニング走行が行われましたが、公式予選を迎えた土曜日は雨が上がり、午前7時55分、A組の20台がコースインする段階では、コースの一部にウェットパッチが残ってはいたものの全車ドライタイヤでタイムアタックを始めました。ここではルーキー

の#6 西村が悪コンディションの中で快調にタイムを縮め始め、その後激しく順位を入れ替えながらのタイムアタックが続きましたが、最終的に#6 西村が1分46秒597を記録、A組トップタイムでセッションを終えました。

午前8時25分からスタートしたB組も20台でのアタックとなりましたが、路面状況はほぼドライまで好転しました。このセッションでは、まず#7 三井がタイムを縮め始めましたが、セッション中盤に#5 小出が、A組のトップタイムを上回る1分46秒432を記録して首位に立つと、翌周さらに1分46秒197にタイムアップ、一旦は#35 荒川麟選手が首位に躍り出ましたが、セッション終盤になって#5 小出が1分45秒724を叩き出して首位に復帰、続く



ように#7 三井も1分46秒066で2番手のタイムを記録しました。この#7 三井のタイムはセッション終了直前に#35 荒川選手によって破られましたが、#7 三井はB組3番手でセッションを終えました。

2回の計時セッションの結果、第1戦、第2戦とも#5 小出がポールポジションを獲得。第1戦では2番手に#6 西村、7番手に#7 三井、第2戦では7番手に#7 三井が続き、#6 西村はセカンドタイムが走路外走行のペナルティーで抹消となったため14番手とスターティンググリッドが決まりました。

第1戦公式予選結果

予選B組1位 #5 小出 峻 1分45秒724 (ポールポジション)

予選A組1位 #6 西村 和真 1分46秒597 (2番手スタート)

予選B組4位 #7 三井 優介 1分46秒066 (6番手スタート)

第2戦公式予選結果 (タイムアタックのセカンドタイム順に決定)

予選B組1位 #5 小出 峻 1分45秒799 (ポールポジション)

予選B組4位 #7 三井 優介 1分46秒074 (7番手スタート)

予選A組7位 #6 西村 和真 1分47秒812 (14番手スタート)

ランオフエリア走行により当該周回タイム1分47秒026は抹消。

■第1戦決勝レース（14周）：天候/晴れ 路面/ドライ



公式予選後の土曜日午後1時54分、シリーズ第1戦の決勝レースが始まりました。ポールポジションの#5 小出峻は順当なスタート加速を見せましたが、それよりも良い加速を見せたのが予選2番手、FIA-F4初レースとなる#6 西村でした。#5 小出はなんとか#6 西村を押さえてアウト側から第1コーナーにターンインしましたが、#6 西村はブレーキを遅らせて#5 小出のインへ飛び込もうとしました。その結果、#6 西村の左フロント

タイヤと#5 小出の右リヤタイヤが接触し、#5 小出は押し出されるようにスピンしてしまいました。

この間に#6 西村は先頭に抜け出し、#41 奥本隼士選手、#7 三井、#80 伊東黎明選手らが続きました。#5 小出は体勢を取り直してコースに復帰しましたが、右リヤアクスルにダメージを負っており、第1コーナー先で走行続行を断念してリタイアしました。



オープニングラップをトップで終えた#6 西村の後方では3番手の#7 三井が激しく2番手の#41 奥本選手を攻め立てましたが順位を入れ替えることはできず、3周目の1コーナーではスキを突いた#80 伊東選手が#41 奥本選手、#7 三井を一気にオーバーテイクして2番手へ進出しました。4番手に後退した#7 三井はコココーラコーナーで前を行く#41 奥本選手に攻め寄ってオーバーテイク、3番手へ復帰しました。

#80 伊東選手の追撃を受け始めたトップの#6 西村にはその後、オープニングラップで発生した#5 小出との接触に対しドライブスルーペナルティーが科せられたので、7周終了時点でトップには#80 伊東選手が繰り上がり、コンマ数秒差で三井が続き、その背後には順位を上げてきた#97 岩澤選手が追いついて3台でトップグループを形成、4番手以降を引き離し始めました。

#7 三井はコンマ5秒を切る間隔で#80 伊東選手に追いつくが届かず、14週のレースは終わりました。しかしレース後、暫定表彰式も終わった後になって、トップでチェッカーフラッグを受けた#80 伊東選手にスタート手順違反のペナルティーが下されたので、正式結果では繰り上がりで#7 三井が優勝することになりました。#7 三井にとってはFIA-F4デビュー戦での初優勝でした。



【FIA-F4選手権シリーズ第1戦・レース結果】

#7 三井 優介 決勝1位 (24分52秒275 ベストタイム 1分45秒886)

#6 西村 和真 決勝28位 (25分33秒016 ベストタイム 1分46秒102)

#5 小出 峻 決勝リタイア

(#6は他車への衝突違反によりドライブスルーペナルティーを受けた)

■第2戦決勝レース（14周）：天候/晴れ 路面/ドライ



5月4日の富士スピードウェイは2日続きの好天に恵まれ、午前8時から第2戦が始まりました。ポールポジションの#5 小出は好スタートを決め、危なげなく先頭を守って第1コーナーに進入、立ち上がってレースを始めました。後方には#80 伊東選手、#15 吉村渉選手、#35 荒川選手らが続きました。7番手スタートの#7 三井は、オープニングラップのうちに2台をオーバーテイクして5番手へ順位を上げましたが、14番手スタートの#6 西村は混乱の中で18番手へと後退しました。

先頭に立った#5 小出はハイペースで2番手以降を引き離しにかかる一方、5番手の#7 三井は前走車を激しく攻め、3周目の最終コーナーでインに飛び込んで4番手へ順位を上げました。ストレートではスリップストリームから逆襲を受け、再び5番手へ後退したものの、4周目のストレートでは逆に相手のスリップストリームに入って1コーナーでインに飛び込み、再び4番手へ順位を上げました。



この間、#5 小出はファステストラップを連発して後続を引き離し独走状態に持ち込みましたが、後方では#6 西村も着々と順位を上げていきました。4番手の#7 三井はレース終盤にスパート、最終ラップの1コーナーで前を走る#80 伊東選手に並びかかり、コカコーラコーナーでオーバーテイクして3番手に進出、そのままチェッカーフラッグを受けました。14週のレースが終わる直前、2番手の#35 荒川選手には走路外走行のペナルティーが科せられていたので、#7 三井の順位は繰り上がり、優勝した#5 小出に続く2位に入賞することとなりました。



シリーズ第1大会が終わった段階のシリーズポイントランキングではドライバー部門で#7 三井が1番手と13点差の43点でトップに立ち、#5 小出が25点の4番手、#6 西村が2点で13番手につけました。チーム部門でHFDPは2番手に20点差の50点でトップにつけました。

【FIA-F4選手権シリーズ第2戦・レース結果】

#5 小出 峻 決勝1位 (24分41秒979 ベストタイム 1分45秒393=ファステストラップ)
#7 三井 優介 決勝2位 (24分50秒407 ベストタイム 1分45秒489)
#6 西村 和真 決勝9位 (25分02秒863 ベストタイム 1分45秒880)

■2021FIA-F4選手権シリーズポイントドライバーランキング（2022シーズン第2戦終了時点）

1番手 #7 三井 優介 43点
4番手 #5 小出 峻 25点
13番手 #6 西村 和真 2点

(1位25点、2位18点、3位15点、4位12点、5位10点、6位8点、7位6点、8位4点、9位2点、10位1点、)

■2022FIA-F4 選手権シリーズポイントチームランキング（2022 シーズン第2 戦終了時点）

1 番手 HFDP 50 点

（各チーム最上位のみ計上）

●ドライバーズコメント：#5 HFDP RACING TEAM 小出 峻



予選から快調で、自分としては初めてダブルポールが獲れましたし、何もなければそのまま勝つ自信がありました。去年感じた課題についていろいろ考えシーズンオフの間に準備もしてきて、そこで自信を固めていたのでそれが結果に出たんだと思います。第1戦のスタートは、富士のレイアウトを考えるとスリップストリームを使って追いかける可能性があるのですが、そのためにも早く1コーナーを立ち上がろうと思って取ったラインが、ああいう接

触を読んでしまったかなという反省もあります。でも速さには絶対の自信があって、第2戦は絶対に勝てると思っていましたから、第1戦での課題を確実に修正して走った結果が優勝につながりました。今シーズンは、僕がチャンピオンを獲る年だと思っているので、第1戦をリタイアで終えたのは残念ではありますが、まだ開幕したばかりだし、ここから十分巻き返せるし今回はきっちり優勝できたし、気持ちとしては自信にあふれています



●ドライバーズコメント：#6 HFDP RACING TEAM 西村 和真



第1戦の第1コーナーで接触してしまったことは、チームメイトの小出選手に対してお詫びのしようがありません。監督やチーム、ホンダのみなさん、僕を支援してくださったみなさんに対しても、大変申し訳ないことをしてしまいました。反省しています。今回、第2戦のスターティンググリッドに関しては少し失敗してしまったものの、予選まではすごく良い形で進みました。でも第1戦のミスで全てを失ってしまったような形になってしまいました。

レースが始まる前から同士討ちだけは避けろとずっと言われていましたし、自分でも気をつけていたんですが、スタートが良くて小出選手に並べそうだったので、ブレーキを遅らせました。止まらないほどのタイミングではなかったんですが、当たってはいけないと意識し過ぎたためかロックさせてしまいました。大きなミスで、大変な迷惑をかけてしまいましたが、貴重な経験だと学ぶことにします。接触した後は、後ろがスリップでついてきた割にはそれほど近づかれもしませんでしたし、第2戦も周囲で接触や危ない動きがあったので、第1戦のこともあるので引き気味でレースをしていましたが、ペースもそれほど悪くありませんでした。グリップが落ちたときにリズムが崩れて後半ペースが上がらなくなりましたが、そこまでは良い感じで走れました。今回の経験を活かして、次はいいレース運びができるように頑張ります。



●ドライバーズコメント：#7 HFDP RACING TEAM 三井 優介



予選は、飛び出さないように心がけ過ぎて、ちょっと守りの走りになってしまいました。もっと攻めていけば小出選手には及ばなかったと思うけれど、もう少し前に行けたのではないかと思います。予選のタイムアタックは、次戦の課題です。1回目の大会としては落ち着いていられました。冷静でいられたのは、開幕前にチームや小出選手や西村選手と話しながら、安心して走れるクルマを用意できたからだと思っています。僕は、小出選手や荒川選手をライバルと

して意識しているんですが、第1戦では2人とも後退したので、さらに落ち着いてレースができました。ただ、自分と同じペースで走っている相手をどうやって攻略するかが大きな課題でした。レース後に動画を見たら、こういうところで攻められたなというポイントがいくつか見つかったので、それを頭に入れて第2戦に臨みました。スタートは得意なのでうまく順位を上げられて、最後の最後何とかオーバーテイクのチャンスを探っていたんですが、ギリギリ最終コーナーに間に合うかなと思っていたら相手のミスも誘うことができ前に出られました。自分としては満足いく週末になりました。

